

第六回全国保育大研究会を顧みて

副 島 ハ マ

第六回全国保育大研究会は厚生省、福井県、敦賀市ならびに全国、福井県、敦賀市の各社会福祉協議会が主催し、報道関係、商工会議所などの協賛を得て、去る八月二十日から三日間敦賀市で盛大に開かれました。

この大会開催の趣旨は、実際に保育の場に立つ保母をはじめ関係者が、保育内容を中心に研究討議して、児童福祉法の制定以來発展してきた保育所のより一層の向上と、保育技術の練磨をはかり、それによって、大きく保育事業の改善向上に寄与しようとするもので、全国各地から集まった保母を主体として熱心な討議がくりひろげられました。

大会第一日は午前九時三十分開会に続いて十一時から総会が開かれ、研究発表と記念品の授与がおこなわれました。

この総会での研究発表は、八ブロックから各一人、地元福井県から一人と東京から

一人の合計十人によっておこなわれ、「農村保育所は果して不必要か」と題して成宮カツエさん（滋賀県）、「現在の給食費でおこなっている栄養の実態について」と題して竹之熊美佐さん（熊本県）、「保育所におけるつげ口の問題」と題して齊藤節子さん（宮城県）、「幼児画と保育のすがた」と題して永田久恵さん（静岡県）、「雪の観察及び操作、創作など」と題して福島順子さん（石川県）、「保育園における集団指導についての試み」と題して戸倉百合子さん（福井県）、「保育計画の作成について」と題して森恵美さん（徳島県）、「保育者の啓蒙を目的とした保育所運営について」と題して広瀬静枝さん（鳥取県）、「長野県保育園児の生活習慣実態調査についての一考察」と題して林五十鈴さん（長野県）、「保育所保母の研究活動における諸問題」と題して新井正子さん（東京都）がそれぞれ発表され、綿密な調査研究の結晶をうかがい知るとも

に、黒丸正四郎先生（大阪市立大学助教授）松村康平先生（お茶の水大学助教授）鯛子田繁雄先生（慶福育児会病院長）谷川貞夫先生（社会事業研究所長）の講評があり、意義深い総会を持つことができました。

成宮氏の研究は、農村の実態を数的に表わして農村における常設保育所の必要性を説いたもので、その周到な調査と論旨には強くうたれるものがありました。また戸倉氏の研究は、集団指導というテーマが取り上げ方がよかったと思います。森氏の研究は、実に四年越し続いているもので、長期に亘る熱心な努力がみものっていましたし、竹之熊氏の研究は、給食についてのそれが、そのままそっくり役に立つという点でよかったと思います。その他いづれもその地方や地域の特色をだし、ことに東京都の保母の保育活動などは極めて自主的で、全国各地域が参考とすべき諸問題を含んでいたと考えます。

ついで大会第二日は十分科会が午前九時から開かれ、全体のテーマ、「保育所の児童を心身ともに健やかに育成するために」を基として、第一分科会では「乳児保育」、乳児保育の実際について、健康に関する技術的な問題や乳児保育に関する記録の取り

方、基本的な生活習慣の問題、乳児用遊具に関する新工夫がとりあげられ討議されました。

第二分科会では「健康管理」健康保育計画とその内容をテーマとして、幼児の運動能力を如何に発達させるが、その指導法はどうするか、基本的習慣の養成の中、とくに健康保育上大切な手洗いの徹底をどのように指導するか、習慣づけの方法、肝油の服用、検便、予防接種の費用を免除或は公費負担にしてほしいなど、また、給食関係者の衛生管理の注意点、子どもの午睡のさせ方、伝染病児の取扱いかた等、多方面に亘って協議討論されました。

第三分科会では「給食」(一)、七円十銭での給食のありかた。(二)、給食を完全に実施する方策をテーマとして協議された結果、家庭よりいくらかの補助金を徴集する。私立の場合は施設長の負担とする。公立の場合は市町村費の負担とする。現物による寄附の協力。自家菜園。材料購入の工夫など補助方法がだされましたが、最後の申合せ事項として一、全国の保育所が一段と内容の充実した副食給食を実施すること。一、カード式献立表の研究と実践。一、金額在庫負担で栄養士を保育所主管課に配置する

ことなどが一致した意見でした。

第四分科会では「問題のある児童」問題のある児童の指導がテーマとされ、身体障害児、精神遅滞児とか、いわゆる問題をもつ幼児(集団に入らない子や集団を乱す子、爪かみや性的な問題等の習癖を持つ子など)の集団の中での問題などが熱心に討議されました。

第五分科会では「環境整備」(一)、保母の担当と組分けになつて。(二)、保育用具の工夫についてをテーマとして、人的、物的環境、混合組編成、保母の担当と組分けについて、家庭的雰囲気の必要性について、保育用具の工夫などが協議討論されました。

第六分科会では「自由あそび」、自主性、創造性、社会性を伸ばすための自由遊びと指導についてがテーマとされ、保育に欠ける乳幼児と言語、保育に欠ける乳幼児と音楽リズム、保育に欠ける乳幼児と絵画製作等が熱心に討議されました。

第七分科会では「保育計画」、保育計画とその指導についてをテーマとして、デスクプランの少い有意義な発表が多く展開されました。一日の保育の流れの中心をどこにおくかとか、子どもの望ましいパーソナリティを養うにはどこに目標を置くかなど種

々質問が出て解決案がとりかわされました。

第八分科会では「保育に欠ける子どもとその家庭」、保育に欠ける児童の実態とその指導についてをテーマとして、「保育に欠ける」という意味の理解や、工場地帯、細民街、ダム工事地帯等の不良地域に育つ子どもの実態、そして学童保育、入所基準、定員などの諸問題が討議されました。

第九分科会では、「保母の生活」保母の生活態度はいかにあるべきかをテーマとして、保母の生活態度、職場の内部における保母の融和、保母の資質の向上、保母の待遇問題、保母の悩み(恋愛、災害など)、保母の組織について協議されました。

第十分科会では「保育所の運営及び管理」をテーマとして、保育所の運営及び管理の適正化について公立と私立との運営上の差異、受託児童が被害をこうむったときの設置、予備保母の常置、地域と保育所のつながりなどについて討議されました。大会第三日は午後九時から総会が開かれ、各分科会の報告や、大会主催者と参加者代表の所見が述べられて盛會裡に第六回大会の幕は閉じられました。